令和８年度　第１回能勢町環境対策検討委員会　議事録

開催日時	令和８年 10 月６日（火）　午後２時 00 分～午後３時 15 分
開催場所	能勢町役場本館会議室２
出席委員 （5 名中 5 名）	伊藤　耕二、仲　正彦、福井　利実、今堀　淳二、川本　純子
欠席委員 （0 名）	
議題	①ごみ組成調査の実施について（報告事項） ②生ごみ堆肥化機器購入補助制度の見直しについて（報告事項） ③各計画の見直し案について（協議事項）
議事録	■開会 ■自己紹介 ■委員の出席報告 ■議題 <u>①ごみ組成調査の実施について（報告事項）</u> ※事務局及びごみ組成調査委託業者（NPO 法人木野環境）より資料に基づいて説明 委員長）　容器包装プラスチックの分別協力率（資源化できる容器包装プラスチックが、生ごみ類ではなく容器包装プラスチックとして出された割合）が 43%とのことだが、他自治体と比べてどうか。 委託業者）　経験上、分別協力率の高い自治体で 50%程度である。それに比べると少し低いが、PR をすればもっと改善できると思う。 委員長）　広く知られていないだけで、実はリサイクルできるようなものはあるか。 委託業者）　今回の組成調査結果で、汚れていない容器包装プラスチックが可燃ごみに含まれていた事例があり、全体的な底上げが必要である。なお、可燃ごみに含まれる缶・ビン・ペットボトルは非常に少なかった。住民が必要と感じてもらえれば、協力してくれる特徴があるのではないか。 委員）　手付かず食品もたくさん出されていると感じたが、賞味期限が過ぎたものが出されているのか。 委託業者）　賞味期限が切れているもの、切れていないものどちらも出されている。

委員）	乾物などは、保存の仕方次第で食品の持ちも変わると思う。
委託業者）	賞味期限が長いものであっても、非常食として棚の奥にしまいこんで、長期間経過してしまったケースもよくある。
委員）	たくさんの食品ロスが出されている印象である。 この委員会で話をしているだけではなく、広報誌などで住民に周知することが大切である。提供いただいたチラシは、文字だけでなくイラストがあり、わかりやすく、少しでも住民の意識が変わればよい。
委員長）	継続が大事であると考えるので、引き続き周知をお願いする。
	<u>②生ごみ堆肥化機器購入補助制度の見直しについて（報告事項）</u> ※事務局より資料に基づいて説明
委員）	毎年予算を使い切っているのか。
事務局）	令和 7 年度から予算の上限額が減額となったこともあり、令和 7 年度と令和 8 年度については、早期に予算の上限に達し、募集を終了した状況である。
委員）	同じ人が何回も申請してよいのか。
事務局）	補助金を受けた日から 5 年を経過しなければ、次の申請を行うことができないものとしている。
委員長）	今年度も 11 件で受付を終了したとこのことであるが、今回の見直しで 20 件程度は申請できることになるのか。
事務局）	その認識である。
委員）	生ごみ処理機はいくらするのか。
事務局）	7～8 万円程度のものが多い。
委員長）	今回の見直しで年間 20 件程度導入できれば、5 年間で 100 件程度導入できることになるので、事務局は継続的な制度維持に努めてもらえればと思う。

	③各計画の見直し案について（協議事項） ＜第３次　能勢町廃棄物（ごみ）減量計画　中間見直し（案）＞ ※事務局より資料に基づいて説明
委員長）	内容的には、年度が変わって内容を更新すること（時点修正）が主な変更であるかと思う。ごみ組成調査の内容をどこまで計画に盛り込むかについて意見があればいただきたい。
委員長）	目標値（1 人 1 日当たりの生ごみ類排出量）が 313g で、直近の令和 7 年度実績が 353g とのことで、40g 減らしていく必要がある。今回、食品ロスのチラシなども作っているので、計画内にイラストなどを挿入すればより分かりやすいと思う。 委員の皆さんに質問だが、更なる減量のポテンシャルのある項目として挙げられている主な項目（食品ロス、リサイクル可能な紙、容器包装プラスチック）で、どれが一番取り組みやすいと感じるか。
委員）	生ごみ類が最も減量しやすいのではないかと感じる。
委員長）	確かに、食品ロスは思っていたより多い印象である。ただし、家庭によって排出量にバラつきがあるとも感じる。
委員）	農業をしているが、調理くずは、畑の肥料として活用している。良い土になっていると感じており、畑をしている方は身近に取り組めるのではないか。 目標値の 313g の根拠は何か。
事務局）	減量目標としては、国崎クリーンセンターが供用開始された平成 21 年度からの実績値で最も少なかった数値を採用している。
委員）	可燃ごみは、重量ベースで考えるとほとんどが水分である。水分量が多いまま焼却すると、焼却炉にダメージを与えることになると思う。そういう点を啓発できれば良いのではないか。
委託業者）	日本全体の傾向であるが、缶・ビン・ペットボトルの分担率は非常によくなっている。また、別の自治体で世帯人数別のごみの重量を測る調査をしたところ、一人世帯の方のごみの重量が重い傾向にあった。二人世帯になったからといって、重量が一人世帯の倍になるわけではない。おそらく、調理くずなどは一人分作るのも二人分作るのもほとんど量は変わらない傾向にあるかと思う。一人当たり世帯が増えていることと、一人当たりのごみ量が増えていることについて何かしら関係があるのではないか。 ただし、今回の目標値の達成については、更なる減量の余地もあるので不可能ではないと考える。

委員長）	現実離れした目標ではないが、家庭それぞれが食品ロスをなくしたり、もう少し分別を徹底することで、クリアできる数字であるということか。
委託業者）	その通りである。容器包装プラスチックが分別されれば、可燃ごみは減ることになる。
委員長）	それでは、廃棄物（ごみ）減量計画については、提示のあった内容で中間見直しを進めていくということで問題ないか。 【異議なし】
委員長）	事務局は中間見直しの手続きを進めていただくようお願いする。 <u>＜第３次　能勢町環境基本計画　中間見直し（案）＞</u> ※事務局より資料に基づいて説明
委員長）	「ネイチャーポジティブ（自然を回復軌道に乗せるため、生物多様性の損失を止め反転させること）」について、国際的な流れから国の環境省などが引用している言葉であるが、住民には伝わりにくいと感じている。生物多様性ならまだ馴染みがあると思うが、国の方針で馴染みのない言葉が増えていると感じる。
副委員長）	環境分野に限らず、あらゆる分野で新しい言葉が出てきている。
委員）	29 ページに、「子ども向けの環境教育で、これまでは出前授業を行っていた。」と記載があるが、どのような内容か。
事務局）	以前は、町職員が小学校に赴き、出前講座を実施していたとのことである。現在は、4 年生が社会学習で能勢町について学ぶ際に、ごみについても学習している。また、国崎クリーンセンターへ社会科見学に行っている。
委員）	義務教育時から、ごみの分別について楽しく学べる機会があればよいと思う。
事務局）	環境的な観点では、豊中市と連携して毎年「里山デイキャンプ」を実施している。その他、去年からの取組として、学校給食に大阪エコ農産物を取り入れた給食を年 1 回提供している。
委員）	環境のことを身近に感じてもらえる機会になればと思う。 また、生ごみ類（可燃）のうち、食べ残し・手付かず食品・調理くずを合わせると全体の 4 割程度になる。この前、新聞にミズアブが食品廃棄物を処理し、さらに幼

	虫はたんぱく質飼料として、フンは肥料として有効活用ができる記事を読んだ。農家なので、非常に興味を持ったので情報共有させていただく。
委員長）	私が所属している大阪府立環境農林水産総合研究所の食品リサイクル部署にて、食品残渣をミズアブの幼虫に食べさせ、幼虫自体を魚のえさにして養殖する事例があると聞いている。コストの問題などから、実用化にはまだ至っていないそうである。
委員長）	生ごみの水分量は時期により異なるのか。
委託業者）	生ごみは、ほとんどが水分と言われている。住民が生ごみをさらに分別すれば、可燃ごみが 4 割減ると言われている。肥料などにリサイクルする場合、コストがかかるので、行政が負担するのか有志の農家等が始めるのかなどの方法が考えられる。今後、伏見の農家と連携し、住民からごみ 1 ㎏を 1 ポイントで買取り、弊社は肥料として活用し、ごみを持参した住民は直売所で 1 ポイントを 1 円で使える仕組みを考えているところである。
委員）	自宅で生ごみ処理機を使用しているが、使用するかしないかでごみの重さは大きく異なる。生ごみを出さなければ、可燃ごみの量は少なく、軽い。ただ、電気を使って処理機を使用するのが気になっている。その点でいえば、伏見の取組は非常に良い取組だと感じた。賛同してくれる人は少なからずいると思う。
委託事業者）	能勢町の場合は、町内に新電力会社があり、電気を使用するにしても、同社から電気を購入すれば、環境負荷の低い電気を使用することができると思う。
委員長）	他に意見がないようなので、事務局は中間見直しの手続きを進めていただくようお願いする。
	■その他
委員長）	それでは、本日の議題については以上となる。 今までの議論を踏まえて何かご意見などはあるか。
事務局）	貴重な時間をいただき感謝する。次回の委員会で、能勢町ごみ処理基本計画の改定案を提示したい。会議の開催時期は、12 月頃を予定している。改めて日程調整を行いたい。
	■閉会
委員長）	本日の委員会は、これをもって終了する。
	以上